



「障がい者の家族ってどうですか？」

－選ばれちゃった？－

No. 2



独立新生葛師教会牧師

峯野 慈朗

「選ばれちゃった？」

マモルが生まれて3日目の水曜日、病院にいる妻から電話があった。「じろうくん、お昼に来れる？先生から言われたことがあるの」妻の言葉に、なにか大事なことの気配を感じながら、ご飯とおかずを弁当箱に詰め、産院に向かった。病室では妻のベッドの横に、新生児用ベッドが置かれマモルが寝ている。感謝の祈りをして弁当箱を開けると、妻が話した。「ダウン症かもしれないって、それから左目に白内障があるんだって」

やっぱり！ダウン症。2日前、ガーゼの服を着せられ、キャスター付きの小さなベッドで分娩室から病室に運ばれてきたマモルの顔をのぞき込んだとき、そう思ったのだ。あの時、妻の顔を見ると彼女もなにか言いたそうだった。でも、お互い何も言わないまま、忘れてしまっていた。急に思いがグルグル回り出して、あの日、心に響いていた「主はあなたを守る方」という聖書の言葉（詩編121・5）が、再び響いてきた。神がくださったマモルという名前、それは神さまがわたしたち夫婦に「どんなことがあってもわたしはあなたたちを守るよ」というメッセージだったのだと、神さまの愛が迫ってくるようで、感動し

て涙が出てきた。

妻も目頭を熱くしていたので、同じ思いかと思ったら、少し違った。妻は保育の短大時代に、先生から「天国の特別な子ども」という詩を紹介されていて、それを思い出し、「わたしたち、選ばれちゃったんだ！」と感動していたらしい。なんだか「海外旅行にペアでご招待！当たっちゃった！」みたいに聞こえるが、この詩はすばらしい力をもっていると思う。ちなみに「しほもマモルを見た時、ダウン症だと思ったんでしょ？」と聞いてみると、「ううん、ダウンの子に似てるなと思ったけど、ダウン症だとは思わなかった」だそう。感じ方は違うものだ。

